

## C-CAT におけるがんゲノム情報

吉田 輝彦

(国立がん研究センター がんゲノム情報管理センター)

2017年6月27日、我が国のがんゲノム医療実装の基本設計書である、がんゲノム医療推進コンソーシアム懇談会報告書が厚労省から公開された。一部の国や企業がゲノム医療の Real World Data の収集あるいは囲い込みを強力に進める中、スタートに少々遅れをとった我が国は、国民皆保険の強みを活かして、診療と研究の連携、個人情報保護とデータシェアリングの同時推進、個人から次の世代への橋渡し、全ゲノム解析時代への準備を基盤とする新たな時代の課題への取り組みの第一線に挙に到達しようとしている。ビッグデータやネットワーク、AI が医療にも科学にも産業にも広範囲な影響を及ぼそうとしている中、少子高齢化・人口減少の道の先頭を進む我が国の生命線の一つともなる取り組みになると予想される。その要は、全国のがんゲノム医療中核拠点病院・拠点病院・連携病院のネットワークによる「段階的な」ゲノム医療実装と、日本人の日本人のがんゲノム情報・臨床情報を集積・保管・活用するための仕組み「がんゲノム情報管理センター」(C-CAT)の整備である。中核拠点病院等連絡会議の5つのワーキンググループが設置されたのが2018年5月であり、C-CATの正式な発足が2018年6月、保険償還開始が2019年6月であるから、我が国は懇談会報告書から2年弱、WGによる実働約1年間という驚異的な速度でゲノム医療の実臨床への導入を開始した。保健医療を健全に持続させつつ、かつその中にデータシェアリングをはじめとする、厳密には個人の診療の枠を超えた要素を組み込む作業は、健康保険法第二条の、健康保険制度は、「国民が受ける医療の質の向上を総合的に図りつつ」実施するという精神に基づいていると言える。がん医療の最先端において生じている、保健医療への新たな期待は、全ゲノム解析時代を迎え、難病・希少疾患をはじめとする他疾患領域にも広がっていくと思われる。C-CATの現状と課題について紹介し、忌憚のないご意見をいただきたい。

## 御経歴

令和元年 10 月 30 日現在

吉田 輝彦（よしだ てるひこ）



1983 年慶應義塾大学医学部卒。

1985 年国立がんセンター研究所リサーチレジデント、2010 年研究所遺伝医学研究分野長。

1999 年より中央病院併任、遺伝相談外来担当、2015 年より中央病院遺伝子診療部門長。

2018 年 6 月より C-CAT（がんゲノム情報管理センター）副センター長併任。